

第 4 2 回 病 診 連 携 委 員 会 次 第

日 時 平成 25 年 4 月 22 日 (月) 午後 7 時 30 分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 8名
南 医 師 会 : 1名
愛 染 橋 病 院 : 3名
大野記念病院 : 3名
多根総合病院 : 1名
富 永 病 院 : 2名
浪速生野病院 : 2名
内 藤 病 院 : 2名
藤井寺市医師会 : 2名
浪速区役所 : 2名
社会福祉協議会 : 1名
リハステージ : 1名
ブルーカード事務局 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回の委員会には、藤井寺市医師会より参加があった。

議 題

1. 第 41 回病診連携委員会報告について
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. ブルーカード事例検討等連携病院からの報告について (多根総合病院)
初めて「かかりつけ医申請書」を使用して退院後のかかりつけ医を決めてもらったが、すみやかに担当医が決定し、スムーズに退院手続きが行えたことが報告された。
3. 病診連携委員会のアンケート結果について
(連携病院の地域連携室への質問)
特に力を入れている科目と機能について
この質問の主旨は、地域連携パスを構築するための基礎情報の収集であった。
現在運用されているパスは、愛染橋病院は糖尿病、富永病院は循環器と脳卒中、大野記念病院はCKDに関するパスである。病院機能のジャンルは、愛染橋病院は急性期、亜急性期からレスパイト入院まで、大阪警察病院は超急性期から急性期、浪速生野病院は急性期が主であるものの回復期や、リハビリも見ている。多根総合病院は急性期が中心であるが、リハビリテーション病院もあるので幅広く見ることができ、大野記念病院、山本第三病院は急性期、亜急性期が中心で、内藤病院は療養型病床の利用が多いとのことであった。
(診療所への質問)
よく紹介する科目と紹介に難渋したケースについて
循環器内科、呼吸器内科、脳神経外科、整形外科などの精査や緊急治療が必要なものへの紹介が中心であった。夜間に緊急入院が必要なケース、特に呼吸器系疾患の紹介に難渋することが多いものの連携病院の協力により、なんとか受け入れてもらえているとのことであった。ブルーカードシステムが良好に機能していることが確認された。
(包括支援センター、ケアマネージャへの質問)
医療との連携で難渋したケースについて
緊急時などの主治医と連絡を取る方法が不明確で対応に時間がかかったケースや、医療と介護の連携を期待して既定のシートを使った情報交換が図るも反応が少なかったケースや、主治医意見書の作成が遅くて介護認定の申請がスムーズに進まなかったケースの報告があった。緊急連絡手段の明瞭化、医療と介護間の情報共有方法の整備、主治医意見書の早期作成 (特に入院患者) が強く望まれた。今後、医局などで主治医意見書作成の迅速化を呼びかけること、医療機

